

4. 進級・卒業

1 進級

(1) 進級要件

「第3年次への進級に関する内規」に基づき、2年次から3年次への進級に必要な単位数は48単位です。

2年次修了時点で卒業要件科目の内48単位以上修得した学生は、修得科目に関わらず3年次へ進級できます。

1年次から2年次へ、3年次から4年次への進級要件はありませんので、自動的に進級します。

なお、1セメスター休学した場合でも次の学年に進級しますが、2セメスター連続して休学した場合は、原級にとどまります。

(2) 進級時期

進級時期は、3月(2年次秋学期)のみです。2年次春学期修了時点で進級要件を充足しても年度途中に3年次へ進級することはできません。

(3) 進級不可(留年)について

進級不可(留年)となった学生については、3月中旬に保証人宛に通知します。

2 卒業

(1) 卒業要件

大学を卒業するためには、次の2点を満たさなければなりません。

- ・ 通算して4年(8セメスター)以上在学した者(休学期間は除く)。
- ・ 所定の128単位(卒業に必要な単位数)を修得した者。

注) 所定の128単位(卒業に必要な単位数)については、各学科のカリキュラム概要を参照してください。4年次修了時点で条件を満たしていなければ、128単位以上修得していても卒業することはできません。

(2) 学位の授与

卒業要件を充足した者は、「愛知学院大学学則」第37条により学士(総合政策学)の学位が授与されます。

(3) 卒業時期

卒業時期は、3月または9月のいずれかです。

- ・ 3月卒業
4年次秋学期修了時点で卒業要件を充足した者。
卒業可能者には、3月上旬に保証人宛に通知します。
- ・ 9月卒業
4年次春学期修了時点で、4年(8セメスター)以上在学し、卒業要件を充足した者。
卒業可能者には、9月中旬に保証人宛に通知します。

(4) 卒業不可(留年)について

卒業不可(留年)となった学生については、3月上旬に保証人宛に通知します。

次年度以降の卒業に関する調査を行います。「卒業に関する調査」を履修登録期間までに教務課へ提出してください。

3 進級・卒業要件充足状況の確認方法

WebCampusで、履修登録をした科目の進級・卒業要件充足状況を確認することができます。

カリキュラム概要

卒業要件概略表

利用区分		1年次		2年次		3年次		4年次		合計単位数									
		科目・単位数																	
教養教育科目		宗教学Ⅰ・Ⅱ		4		その他の教養教育科目 16単位選択					20								
専門教育科目	リテラシー科目	言語リテラシー	コミュニケーション英語Ⅰa・Ⅰb Ⅱa・Ⅱb・Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb		8		プラクティカル英語Ⅰ・Ⅱ		4		8単位選択 *注1	34	96						
			日本語表現法Ⅰ		2														
		情報リテラシー	情報リテラシーⅠ・Ⅱ		4														
			リサーチリテラシー	社会調査論Ⅰ		2		社会統計学Ⅰ データ分析Ⅰ		2 2									
		プランニングリテラシー						2単位選択 *注1											
		基盤科目	総合政策概論	2		政策規範論		2		14単位選択 *注2				22					
	政策過程論			2															
	政策評価論			2															
	展開科目		24単位選択											24					
	リサーチ・プロジェクト		リサーチ・プロジェクトⅠa・Ⅰb		4		リサーチ・プロジェクトⅡa・Ⅱb		4		リサーチ・プロジェクトⅢa・Ⅲb			4		リサーチ・プロジェクトⅣa・Ⅳb		4	
グレイゾーン		キャリア・デザイン科目（12単位まで卒業要件に算入可能） 教養教育科目・専門教育科目・他学部他学科科目・他大学履修科目（単位互換履修）のうちから選択										12							
合 計												128							

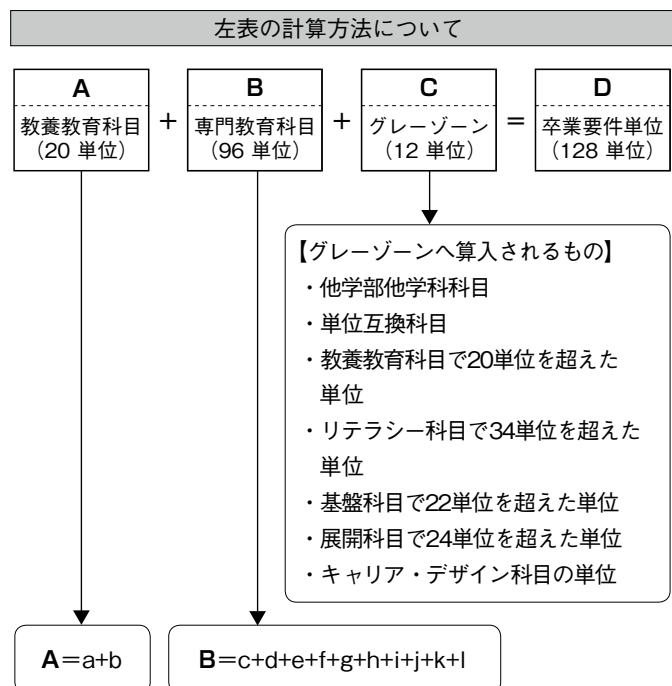
*注1 2年次以降、予備登録手続きにより履修できます（「日本語表現Ⅱ」は1年次より履修可能、ただしクラス定員あり）。

*注2 基盤科目の「政治学基礎」、「経済学基礎」、「国際関係学基礎」、「社会学基礎」、「情報科学基礎」、「人間科学基礎」のうちから3科目6単位以上修得しなければなりません。

以上の128単位の修得要件を満たしていないと卒業することができません（網掛け部分は必修科目）。

成績通知書の単位修得状況表の見方

	単位修得状況	必要単位	修得単位
a	宗教学	4	4
b	教養教育科目	16	8
c	情報リテラシー（必修）	4	4
d	言語リテラシー（必修）	14	10
e	リサーチリテラシー（必修）	6	2
f	プランニングリテラシー（選択必修）	2	
g	リテラシー科目（選択）	8	
h	基盤科目Ⅰ（必修）	8	2
i	基盤科目Ⅱ（選択必修）	6	6
j	基盤科目Ⅲ（選択）	8	4
k	展開科目	24	
l	リサーチ・プロジェクト	16	4
C	グレイゾーン	12	
D	卒業要件単位	128	44



カリキュラム概要

総合政策学科の卒業要件単位について

卒業するためには「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たす必要があります。

教養教育科目 20 単位	+	専門教育科目 96 単位	+	グレーゾーン 12 単位	=	卒業要件単位 128 単位
-----------------	---	-----------------	---	-----------------	---	------------------

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・○は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目（20 単位）

分野	卒業要件		1年次	2年次	3年次	4年次
	分野合計	内訳				
宗教学	20単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目		16単位	人文系:心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ 各② 社会系:法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、経済学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、 歴史学A-Ⅰ・A-Ⅱ・B-Ⅰ・B-Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各② 自然系:数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ 各②			
			教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①			
			主題系:仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、 生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、 人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、 アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、 英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、 健康の科学 各②			
外国語科目						
健康総合 科学科目						
海外事情科目			海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、 海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①			

※教養教育科目において20単位を超えた場合、「グレーゾーン」に算入される。

（注1）フランス語はⅠ・Ⅱ（基礎）、Ⅲ・Ⅳ（総合）のみ開講

（注2）外国人留学生のみ履修可能。

グレーゾーン（12 単位）

分野	要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
グレーゾーン	キャリア・ デザイン科目	キャリア・デザインⅠ、キャリア対策Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各② キャリア・デザインⅡ、社会と倫理 各②、心理学実験Ⅰ・Ⅱ 各① インターンシップ ②			
	その他	・「教養教育科目」のうち、20 単位を超えて修得した科目の単位 ・「専門教育科目」の「リテラシー科目」、「基盤科目」、「展開科目」で必要最低単位を超えた単位 ・「単位互換科目」で修得した単位 「他学部・他学科科目」で修得した単位（12 単位まで修得可）			

カリキュラム概要

専門教育科目（96単位）

分野		要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
リテラシー科目	情報リテラシー	4単位	情報リテラシーⅠ・Ⅱ 各②			
		* (注3)	プログラミングⅠ・Ⅱ、データベース 各②			
	言語リテラシー	14単位	コミュニケーション英語Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb・Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb 各①、日本語表現法Ⅰ②			
			プラクティカル英語Ⅰ・Ⅱ 各②			
		* (注3)	日本語表現法Ⅱ②			
			イングリッシュプロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②			
	リサーチリテラシー	6単位	社会調査論Ⅰ②			
展開科目		* (注3)	社会統計学Ⅰ、データ分析Ⅰ 各②			
			社会調査Ⅱ、社会統計学Ⅱ、データ分析Ⅱ 各②			
	プランニングリテラシー	2単位 * (注3)	ロジカルシンキングⅠ・Ⅱ、問題解決技法、プランニング論、ファシリテーション、空間デザイン 各②			
	基盤科目	8単位	総合政策概論②			
			政策規範論、政策過程論、政策評価論 各②			
		6単位	政治学基礎、経済学基礎、国際関係学基礎、社会学基礎、情報科学基礎、人間科学基礎 各②			
		(注4)	法学入門、環境学入門、グローバルイノベーション論、生命論 各②			
展開科目	政治・行政クラスター		日本現代史、世界現代史、組織意思決定、数理意思決定 各②			
	経済・環境クラスター		政治理論、政治過程論、日本政治論、比較政治論、現代行政論、日本行政論、地方自治論、地域政策、合意形成論、NPO・NGO論 各②			
	国際クラスター		経済政策、財政学Ⅰ・Ⅱ、金融論Ⅰ・Ⅱ、環境政策、環境評価論、環境マネジメント論、環境共生論、国際環境論 各②			
	社会・文化クラスター		国際関係史、国際関係論、国際安全保障論、外交政策、国際機構論、人間の安全保障論、国際開発論、国際協力論、国際政治経済論、国際社会論 各②			
	情報・メディアクラスター		表象文化論、多文化共生社会論、コミュニティ論、社会政策、機会均等論、格差社会論、男女共生社会論、生涯学習社会論、現代教育論、教育政策 各②			
	人間科学クラスター		情報法、情報倫理、情報社会論、マスメディア論、コミュニケーション論、情報システム論、情報ネットワーク論、情報インタフェース論、マルチメディア論、情報産業論 各②			
	総合領域		生涯発達心理学、青年心理学、人格心理学、メンタルヘルス論、社会心理学、対人認知論、心理診断法、行動科学、生命健康科学、生態学 各②			
リサーチ・プロジェクト			総合政策a・b・c・d・e・f 各②			
		16単位	リサーチ・プロジェクトⅠa・Ⅰb 各②			
			リサーチ・プロジェクトⅡa・Ⅱb 各②			
			リサーチ・プロジェクトⅢa・Ⅲb 各②			
			リサーチ・プロジェクトⅣa・Ⅳb 各②			

(注3)「*」の中より8単位選択して修得する必要がある。

(注4) 8単位まで「基盤科目」に算入される。「基盤科目」が22単位を超えた場合、「グリーゾーン」に算入される。

自由選択科目（卒業要件に算入せず）

		1年次	2年次	3年次	4年次
自由選択科目	卒業要件に算入しない	キャリア・デザイン②			
		※サービスマーケティング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、地域連携学A・B・C・D 各②			
		長期インターンシップ④			

（※詳細についてはP.52・53を参照）

I. 大学で学ぶために

II. 授業・試験・成績

III. 履修関連事項

IV. カリキュラム

V. 諸資格の取得

VI. カリキュラムマップ

VII. 諸規則

VIII. 教室見取図

地域・社会連携コースの説明 ～新しいことに挑戦し、視野を広め、課題解決する力を身につけたい人へ～

地域・社会連携コースは学部授業とは別に社会人基礎力を身につけることを目的とし、1年次より設定したAGU独自のカリキュラムです。どの学部の学生も自由に参加できます。

1 地域・社会連携コースの特色

●身に付く能力

経済産業省が提唱している、人生100年時代に求められるスキル「社会人基礎力」を身につけ、仕事での活躍はもちろん、生活する地域でも活躍する「地域貢献」型の人材を目指しましょう。

●社会人基礎力とは

●前に踏み出す力(アクション) ～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む～

主体性:物事に進んで取り組む力

働きかける力:他人に働きかけ巻き込む力

実行力:目的を設定し確実に行動する力



●考え抜く力(シンキング) ～疑問を持ち、考え抜く～

課題発見力:現状を分析し目的や課題を明らかにする力

計画力:課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力:新しい価値を生み出す力



●チームで働く力(チームワーク) ～多様な人々とともに、目標に向けて協力する～

発信力:自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力:相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性:意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力:自分と周囲の人々や物事との関係を理解する力

規律性:社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力:ストレスの発生源に対応する力



参考:経済産業省 「人生100年時代の社会人基礎力」

●コーディネーターによる学生支援

様々な協力者との連携により授業の内容が構成されています。コーディネーターは授業の担当教員でもあり、プログラムの調整、学生の指導を行います。各授業について、履修相談から活動中の困りごとなど適宜、相談にのります。

2 科目の説明

I. サービスラーニング実習Ⅰ～Ⅳ

行政・非営利団体(NPO)・商店街・企業と連携し様々な社会課題を知り、活動するプログラム。連携先の団体と活動する入門的な実習科目です。事前に専門的な知識を身に付ける必要は無く、活動を通して理解を深めます。例えば、高齢化による認知症の問題を考えるプログラムでは、行政の取組みや当事者との交流を行います。ボランティアの活動、講義形式の授業、グループワーク、打ち合わせなど1つのプログラム(実習科目)の中に様々な活動の形態があります。活動と思考を繰り返しながら社会課題に取り組む意義を理解します。何かやってみたいと思う気持ちがあれば参加できます。

II. 地域連携学A・B

地域・社会の問題に取り組む実務家を講師に招き、講義を行います。実務家とは、非営利団体(NPO)、企業、行政などで働く方々です。講義を聴くだけでなく、グループでのディスカッションや講師との対話から、学びと気づきを共有します。

III. 地域連携学C・D

地域連携学C・Dはフィールドワークを行うプログラムです。地域連携学Cでは、2011年の東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故により避難区域に指定されていた福島県川俣町に赴き、避難解除後の復興の現状を知り、地域の方々との交流を通して学び気づきを得ます。地域連携学Dでは北海道の厚沢部町で、過疎化が進む地域でファームステイをしながら交流を通して町が抱える過疎化の課題解決を考え実践します。

IV. 課題解決型演習Ⅰ～Ⅳ

課題解決に必要な基礎素養を学ぶとともに、NPO、商店街・企業グループ・学校等と連携、実務家の方々と一緒に地域の課題解決プロジェクトを企画立案することを通して、調査、分析、提案という課題解決のスキルの習得を目標とする企画実践型のプログラムです。「名古屋城三の丸地区の関係づくり」プロジェクト等、社会連携センターの支援を受けながら連携先との協議を踏まえ、新しい地域づくりに挑戦します。

地域・社会連携コースの説明

～新しいことに挑戦し、視野を広め、課題解決する力を身につけたい人へ～

3 地域・社会連携コース科目の詳細

科目名	授業内容	開講年次	単位数	評価方法
サービスマーケティング実習 I～IV	各テーマによるボランティア活動 事前学習 2日～3日の実習 振り返り会 レポート作成	1年次より履修可能	1単位 (卒業要件単位に算入されない)	認定
地域連携学A (産官民提携講座IV) 地域連携学B	実務家講師による講義 15回の講義形式の授業 記述式試験	2年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位に算入されない)	総合評価
地域連携学C・D	地域に赴きフィールドワーク 事前学習 2日～7日現地での活動 振り返り会 レポート作成	1年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位に算入されない)	認定
課題解決型演習 I (産官民提携講座V)	実務家講師による講義 15回の講義形式の授業 グループワークによる発表	2年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位に算入されない)	総合評価
課題解決型演習 II～IV	各テーマによるプロジェクト演習 調査、グループワーク、発表 ※プロジェクト毎に活動形態は異なります。	1年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位に算入されない)	認定

4 履修方法について

- ①WebCampusにて募集が案内されたのち社会連携センターのホームページ(<https://scc.agu.ac.jp/>)から申し込んでください。
春(4月)・秋(9月)頃に募集します。
- ②定員を越える応募があった場合は抽選にて人数調整を行います。
- ③受講が決まったら、受講開始までにコーディネーターの連絡に従い受講の準備を進めてください。
- ④履修についての質問は下記アドレスまで問い合わせください。
社会連携センター メールアドレス m-ccc@dpc.agu.ac.jp

諸資格の取得

諸資格の取得

総合政策学部で取得できる以下の諸資格の取得を希望する学生は、卒業に必要な単位のほかに定められた単位を修得しなければなりません。教職課程は1年次生、社会教育主事課程、司書課程は2年次生、司書教諭課程は3年次生から履修することができますが、別途課程登録料が必要になります。詳細については、それぞれの説明会で説明しますので、希望者は必ず出席してください(「資格課程履修要項」参照)。

- ・中学校教諭1種免許状(社会)
- ・高等学校教諭1種免許状(公民)
- ・高等学校教諭1種免許状(情報)
- ・図書館司書資格
- ・学校図書館司書教諭資格
- ・社会教育主事課程

社会福祉主事

厚生労働省の定める「社会福祉に関する科目」を3科目以上修得し卒業することにより、「社会福祉主事資格(任用資格)」を取得することができます(三科目主事)。社会福祉主事とは、福祉施設や行政機関で援助や保護が必要な人に相談・援助・指導を行う専門家のことです。該当科目などの詳細は教務課に問合せください。

仏教専修科について

本学に在籍する文学部宗教文化学科以外の宗内生(曹洞宗寺院の子弟)で、在学中仏教専修科に籍を置き、所定の単位を修得し、宗務庁で規定する特殊安居の回数の2回以上を修了したものは、曹洞宗二等教師の補任を受けることができます。詳細は「愛知学院大学仏教専修科規程」および「仏教専修科受講要領」で確認できます。

エクステンションセンター(キャリアセンターキャリア支援課)

皆さんの就職試験および各種資格試験対策を支援するために、エクステンションセンターがあります。エクステンションセンターでは、公務員採用試験対策(国家・地方公務員)をはじめ、行政書士・宅建・簿記・FP技能・証券外務員一種・旅行業務取扱管理者や保育士など専門性が高い講座を開講しています。

他方、秘書やサービス接遇で習得するビジネスマナーやコミュニケーション力は幅広い職業で役立ちます。MOS(Word, Excel, PowerPoint)やTOEIC®は今後必要なスキルです。この機会に始めてみませんか。さらに、SPI(企業が採用試験で用いる筆記テスト)対策まで、皆さんのニーズに応えられる幅広い講座を用意しています。各種資格試験の願書も取り揃えています。

各講座についての詳細は、オリエンテーションで配布している「2025年度 資格取得支援講座案内」を参照してください。またWebCampusのエクステンションセンターのタブから、Webパンフレットも見ることができます。その他、4月上旬には、各専門学校の先生による合同説明会や、各講座ごとの個別説明会もあります。日程等は、大学アプリやWebCampusを通じてお知らせします。なお、ご意見・ご希望などがありましたら日進キャンパスのエクステンションセンター(3号館1階)または名城公園キャンパス事務室までお気軽にお申し出ください。

その他

公務員採用後の社会教育主事などの任用資格、団体資格の認定心理士について在学中でも多くの資格取得ができます。